

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年5月15日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	4月の価格情報				5月		5月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の5月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	5月上旬	5月上旬				
		中旬	下旬							
葉茎菜類	キャベツ	88.59	107	127	88.59 67.20	87	・10.453t (111%)	千葉(44)、神奈川(28)	平均価格 →	千葉産は、端境期により今年より少なめの出荷となっているものの、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、今後は今年並みの出荷の見込み。神奈川産は、定植時期の乾燥と3月下旬から4月にかけての低温により生育が遅れているものの、生育は良好なため、今後は今年並みに回復する見込み。
		91.02	93	121	91.02 81.66	104	・2.591t (113%)	愛知(43)、兵庫(15)、茨城(14)、福岡(13)		神奈川産及び千葉産の出荷量が今年並みに回復すると見込まれることから、現在連休明けの一時的な価格下落で平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	たまねぎ	95.80	116	118	78.12	91	・7.767t (137%)	佐賀(53)、兵庫(16)	→	佐賀産は、生育は概ね順調であるものの、作付面積の減少等により、引き続き今年より少なめの見込み。兵庫産は、早生が大雨による収穫遅れとなっているものの、今後は天候次第ではあるが、今年並みの出荷の見込み。
		95.80	122	119	78.12	86	・2.276t (99%)	兵庫(49)、北海道(25)、佐賀(18)		佐賀産の出荷が平均より少なめ、兵庫産の出荷が今年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31	310	306	277.31	350	・1.104t (112%)	茨城(38)、千葉(29)	→	茨城産は、初夏ねぎが順調な出荷であることから、引き続き今年並みの出荷の見込み。千葉産は、端境期により少なめの出荷となっているものの、夏ねぎの出荷が増加することから、今後はやや多めの出荷の見込み。
		334.73	284 (85%)	345	334.73	324	・178t (109%)	徳島(25)、三重(19)、奈良(17)、香川(10)、大阪(9)、高知(9)		茨城産の出荷が今年並み、千葉産の出荷がやや多めと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの引き続き平均を上回って推移する見込み。
はくさい	67.05	141 (210%)	175 (261%)	67.05	81	・1.787t (96%)	茨城(93)	→	茨城産は、出荷が前進気味であることから、今年よりやや多めの出荷となっており、生育は順調で肥大も良好であるものの、5月中旬にはピークを越えることから、今後は今年並みの出荷の見込み。	
	74.06	140 (189%)	161 (217%)	74.06	106	・490t (95%)	茨城(38)、長野(18)、群馬(11)、岡山(10)、熊本(8)		茨城産の出荷が今年並みと見込まれるが、需要が小さい時期を迎えることもあることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みに推移する見込み。	
ほうれんそう	376.10	448	486	376.10	461	・660t (114%)	群馬(36)、茨城(32)	→	群馬産及び茨城産は、天候に恵まれ気温も高めに推移し、生育は概ね順調であることから、引き続き今年並みの出荷の見込み。	
	416.73	394	440	416.73	530	・254t (89%)	岐阜(68)、群馬(13)		群馬産、茨城産の出荷が今年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
レタス (結球)	156.23	154	192	156.23	142	・3.808t (88%)	茨城(36)、長野(33)、群馬(20)	→	茨城産は、適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き今年並みの出荷の見込み。長野産は、生育は概ね順調であることから、引き続き今年よりやや多めの出荷の見込み。群馬産は、生育は概ね順調であり、気温高により生育が促進されることから、引き続き今年より多めの出荷の見込み。	
	165.00	150	186	165.00	158	・1218t (85%)	長野(69)、兵庫(17)		茨城産の出荷が今年並み、長野産及び群馬産が今年よりやや多めと見込まれることから、現在平均をやや下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
果菜類	きゅうり	266.63	267	253	189.84	225	・6.309t (119%)	埼玉(29)、群馬(22)、茨城(13)、千葉(10)	→	埼玉産は、2月から3月上旬の干ばつの影響による生育遅れはあるものの、天候に恵まれ無加温作の出荷も早めに始まったことから、引き続き今年より多めの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ生育は順調で、着果肥大ともに良好であることから、引き続き今年より多めの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ作柄品質ともに順調であることから、引き続き今年並みの出荷の見込み。千葉産は、今年より多めの出荷となっているものの、越冬作は終盤を迎えていることから、今後は今年並みの出荷の見込み。
		254.91	264	247	186.08	229	・2053t (127%)	宮崎(42)、高知(15)、徳島(11)、群馬(8)、愛媛(8)		茨城産の出荷が今年並みと見込まれるものの、埼玉産、群馬産及び千葉産の出荷が今年より多めと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。
	トマト (大玉)	356.77	305 (85%)	327	230.55	241	・5.437t (98%)	栃木(24)、熊本(22)、愛知(10)、千葉(10)	→	栃木産は、生育は概ね順調であることから、引き続き今年より多めの出荷の見込み。熊本産は、3月から4月の曇天、降雨の影響はあるものの、着果状態は悪くないことから、引き続き今年より多めの出荷の見込み。愛知産は、4月初めの曇天と朝晩の冷え込みにより、生育は遅れ気味なものの、着果に影響はないことから、今後は今年より多めの出荷の見込み。千葉産は、今年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は無加温作の出荷も本格化することから、今後は今年より多めの出荷の見込み。
		337.87	311	328	239.96	250	・2046t (102%)	熊本(67)、福岡(8)		栃木産、熊本産、愛知産及び千葉産の出荷が、引き続き今年より多めと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。
	なす	347.77	410	389	311.92	398	・1.896t (108%)	高知(43)、福岡(19)、群馬(11)	→	高知産は、4月中旬の天候不良の影響から、今年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候が回復し今年並みの出荷の見込み。福岡産は、生育は概ね順調であることから、引き続き今年並みの出荷の見込み。群馬産は、生育は順調で、今後半促成作の出荷も始まることから、引き続き今年より多めの出荷の見込み。
		330.95	395	370	271.01	377	・822t (103%)	高知(33)、大阪(18)、熊本(17)、福岡(17)		高知産及び福岡産の出荷が今年並み、群馬産の出荷が多めと見込まれるものの、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
ピーマン	339.20	406	407	339.20	412	・1.312t (103%)	茨城(72)	→	茨城産は、春作が成り疲れて出荷ペースが鈍いものの、4月に入ってから天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き今年並みの出荷の見込み。	
	311.41	347	341	311.41	365	・527t (121%)	宮崎(39)、高知(21)、茨城(17)		茨城産の出荷が引き続き今年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
根菜類	だいこん	86.59	86	99	86.59	100	・3.846t (99%)	千葉(75)	→	千葉産は、生育は前進傾向で肥大も良いことから、今年並みの出荷となっているが、現在出荷ピークの終盤を迎え、切上りが早まる見込みであることから、今後は今年より少なめの出荷の見込み。
		89.53	76 (85%)	85	89.53	80 (89%)	・1631t (107%)	長崎(32)、鹿児島(19)、群馬(11)、和歌山(8)		千葉産の出荷が今年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	にんじん	156.99	174	166	156.99	134 (85%)	・3.761t (118%)	徳島(66)、千葉(21)	→	徳島産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き今年より多めの出荷の見込み。千葉産は、ハウス物の生育が概ね順調であり、肥大の遅れている露地物も回復傾向にあることから、引き続き今年並みの出荷の見込み。
148.36		169	167	148.36	120 (81%)	・1832t (105%)	徳島(55)、長崎(30)、宮崎(9)	千葉産が今年並みとなるものの、徳島産の出荷が今年より多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
6 キャベツの平均価格は、上段が5月1～15日まで、下段が5月16～31日までの価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	4月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	4月の価格情報		5月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	5月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の5月下旬までの見通し 「図の見方」 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。		
		中旬	下旬						
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	指定野菜の近畿ブロック旬別平均販売価格						
いも類	ばれいしょ	138.39	204 (147%)	207 (150%)	138.39	168 (121%)	・3.725t (95%)	長崎(55)、鹿児島(23)	長崎産は、4月上旬の降雨で収穫が遅れがみられたものの、現在遅れも解消され、本格出荷を迎えることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		144.98	212 (146%)	217 (150%)	144.98	152 (105%)	・1386t (94%)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
6 キャベツの平均価格は、上段が5月1～15日まで、下段が5月16日～31日までの価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	4月の価格情報 (参考) 過去5カ年平均価格	4月の価格情報		5月 (参考) 過去5カ年平均価格	5月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の5月下旬までの見通し 「図の見方」 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。		
		中旬	下旬						
		東京都・大阪市場の旬別価格	東京都・大阪市場の旬別価格						
洋菜類	ブロッコリー	425.81	435 (102%)	445 (105%)	344.20	393 (114%)	・879t (152%)	埼玉(29)、香川(14)、愛知(13)	埼玉産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、3月分の出荷が4月に降にずれ込んだため、現在平年より多めの出荷となっており、今後も露地物の出荷がピークを迎えることから、平年より多めの出荷の見込み。愛知産は、端境により一時出荷量が減少したものの、春作が増加してくるから、今後は平年並みの出荷の見込み。
		447.65	440 (98%)	474 (106%)	363.21	390 (107%)	・174t (113%)		
	アスパラガス	1277.37	1420 (111%)	1659 (130%)	1180.07	1731 (147%)	・175t (74%)	福島(22)、栃木(14)、秋田(12)、北海道(10)、長野(10)	福島産は、芽数が少なく、生育も遅れ気味であることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、作付面積の増加に加え、前進気味となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。秋田産は、低温による生育遅れで、細物が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産及び長野産は、低温による露地物の生育が遅れていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		1267.33	1595 (126%)	1751 (138%)	1331.67	1846 (139%)	・41t (87%)		
葉茎菜類	こまつな	311.05	263 (85%)	252 (81%)	215.24	206 (96%)	・328t (115%)	茨城(44)、埼玉(28)、東京(12)	茨城産及び埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		274.87	261 (95%)	257 (93%)	178.27	201 (113%)	・180t (147%)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成24～28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

○輸入について

貿易統計によると、平成29年3月の生鮮野菜の輸入量は、9万8千トン(前年同月比115%)と、昨年の7月以降、9カ月連続で前年を上回って推移している。また、輸入量の多い加工野菜は、前月は前年より減少したものの、当月は、1万6千2百トン(同112%)と増加し、野菜全体では、2万6千トン(同113%)とかなり大きく増加した。

このうち、中国産の輸入数量は合計で1万3千4百トン(同129%)と、輸入量の51%を占め、2カ月ぶりに50%を上回った。

なお、生鮮野菜のうち、かぼちゃの輸入量が減少したのは、特にニュージーランド産の天候不順による大幅な出荷減に加え、輸入価格が前年と比較して、かなりの程度上昇したことによるものとみられる。

○輸出について

3月の輸出量は、野菜全体では2万2千5百50トンと、前月を大幅に上回ったものの(前月比121%、384トン増)、前年同月を大幅に下回った(対前年比36%)。これは、生鮮野菜が1万4千0百トン(同26%、4033トン減)と前年を大幅に下回ったためである。

これは、昨年3月の生鮮野菜の輸出量の80%を占めたたまねぎの輸出量が前年比11%と大幅に減少したことが要因である。昨年3月は、韓国及び台湾への輸出国が天候不順により不作となり、輸出国に代わって日本から韓国及び台湾への輸出量が多かったことによるものである。

注：関税法の統計品目分類上、「たまねぎ」には「ジャロット」も含まれている。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成29年3月)

区分	平成27年		平成28年		平成29年3月		平成29年1月～3月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比		
生鮮野菜	826,845	93	862,416	104	98,253	115	238,097	117
加工野菜	1,752,337	98	1,768,892	101	161,985	112	444,733	109
野菜合計	2,579,182	97	2,631,308	102	260,238	113	682,830	112
うち中国産野菜合計	1,355,491	96	1,365,785	101	133,906	129	347,836	118
中国産シェア	53		52		51		51	

主な生鮮野菜の輸入先(平成29年3月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	28,338	169	中国	23,564	ニュージーランド	3,568	タイ	733
かぼちゃ	11,604	49	ニュージーランド	11,277	メキシコ	327		
にんじん	10,511	185	中国	7,972	ベトナム	1,172	台湾	714
キャベツ	7,321	937	中国	6,886	台湾	236	ベトナム	106
ばれいしょ	6,373	112	米国	6,301	中国	72		
ねぎ	5,986	146	中国	5,986				
ごぼう	4,828	117	中国	4,792	台湾	37		

同(平成28年3月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	16,733		中国	14,091	ニュージーランド	1,353	タイ	1,042
かぼちゃ	23,809		ニュージーランド	23,458	メキシコ	351		
にんじん及びびかぶ	5,677		中国	3,912	ベトナム	1,087	ニュージーランド	378
キャベツ	781		中国	557	韓国	207	台湾	17
ばれいしょ	5,690		米国	5,690				
ねぎ	4,099		中国	4,063	ベトナム	36		
ごぼう	4,129		中国	4,105	台湾	24		

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びびかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成29年3月)

区分	平成27年		平成28年		平成29年3月		平成29年1月～3月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比		
生鮮野菜	22,992	42	31,867	139	1,400	26	3,194	22
加工野菜	9,510	83	11,101	117	855	97	2,334	100
野菜合計	32,502	54	42,968	132	2,255	36	5,528	33

主な生鮮野菜の輸出先(平成29年3月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	487	80	台湾	293	米国	156	シンガポール	35
たまねぎ及びジャロット	477	11	韓国	456	香港	20		
いちご	226	180	香港	193	台湾	21	シンガポール	6

同(平成28年3月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	610		アメリカ	282	台湾	282	シンガポール	44
たまねぎ及びジャロット	4,349		台湾	2,759	韓国	1,560	マレーシア	25
いちご	126		香港	108	台湾	11	タイ	3

同(平成27年3月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	562		米国	278	台湾	245	シンガポール	37
たまねぎ及びジャロット	9		香港	9				
いちご	105		香港	95	台湾	6		

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。